

## 一般質問通告書

受領日時 令和7年2月21日 午前8時40分 7番 氏名 松浦 真

質問項目	質問の要旨
1 新しい町長のビジョンは	<p>(1) 荒川新町長のビジョンとミッションは。そのビジョン達成のため1期4年で行う具体的なスケジュールは。</p> <p>(2) 町内には様々な領域の専門家がいる。五城目町の持続可能性のため、町の職員だけで独自の事業を推進するのではなく、様々な民間企業や団体とパートナーシップを組むことが必要ではないか。企業版ふるさと納税の推進や民間企業との連携協定も含めてパートナーシップを組んでいく方針はあるのか。現状考えているパートナー候補についても具体的に。</p> <p>(3) 組織風土改革のためにもフレッシュな人事配置が重要。県庁職員の職員派遣や外部人材の登用は考えないか。</p>
2 新しい町長のブレーンは	<p>(1) 町長をより支えていくブレーンとしてどのような人を考えているか。</p>
3 公共交通の利用状況は	<p>(1) 2月から本町部内の移動でも、「五城目町予約式乗合タクシー」の利用が可能になった。現在の利用状況および各運行エリアごとにおける一人当たりにかかる予算額および課題と成果は。</p> <p>(2) 「五城目町森山地区、大川地区、八郎潟町 広域デマンド型乗合タクシー」の利用状況、および一人当たりにかかる予算額および課題と成果は。</p> <p>(3) 「五城目町森山地区、大川地区、八郎潟町 広域デマンド型乗合タクシー」の町内在住者の利用状況（町外の利用との比較もあれば）、および一人当たりにかかる予算額および課題と成果は。</p> <p>(4) 「南秋地域広域マイタウンバス」の町内在住者の利用状況（町外の利用との比較もあれば）、および一人当たりにかかる予算額および課題と成果は。</p> <p>(5) これらの3つの公共交通の課題に対する施策と今後を見通して考えるべき公共交通のビジョンはなにか。</p>
4 ごみ、水道の料金は	<p>(1) ごみ、水道料金はこれまで維持されてきたが、今後見直しの検討がされはじめる。具体的な検討スケジュール、金額規模、それに伴う町民への説明などはどのように計画しているか。</p>

<p>5 町外・国外の宿泊者税の設立を</p>	<p>(1) コロナ禍が落ち着いてから町外・国外から五城目町内に宿泊する人数はどのように変化してきたか。2020年からの年間の宿泊人数の推移を。</p> <p>(2) 岩手県や宮城県では宿泊税導入が進んでいる。五城目町でも新たな取り組みとして「法定外目的税」の検討を進めることで、新たな施策やインバウンド、教育留学に必要な予算確保、取り組みを進めることができるのではないかと。</p> <p>特に、満足度が高い、県外からの教育留学のニーズに対して一泊300円など妥当な宿泊税を町として考えていくことは検討できないか。</p>
<p>6 人員採用状況と役場の雰囲気改善を</p>	<p>(1) R7年度計画16名に対して、現状の確保できている採用見込者は。</p> <p>(2) 町民から役場1Fに入ってから職員が誰も挨拶をしないのはなぜか。暗い雰囲気ですらに役場に行きたくないという声があった。以前から挨拶をしていないのか、それとも仕事が忙しくなってきてしなくなったのか。どちらか。また、役場1Fだけでも来た町民に挨拶することは今すぐにでも改善できるのではないかと。</p>
<p>7 子ども議会で子どもが使える予算を</p>	<p>(1) 教育長の施政説明の中で、こども議会を令和7年度も実施するという話があった。昨年の子ども議会での事業の中では、小中学生から、朝市を盛り上げるシャッターアートや熊対策に向けたドローンの活用など様々な前向きな意見が出ていた。</p> <p>こどもの権利条約批准はもちろん、町のふるさと教育を考えていく上にあたり、山形県遊佐町のように年45万円を子どもたちが扱い、様々な取り組みに活かせるための予算措置が必要だと考える。</p> <p>宇治市では本年1月に中学生が請願を行い学校のルールを見直す提案を行うなど、主体的に地域の変革を生み出す力と権利は小中学生にも必ずある。</p> <p>また、実施に向けてはヨコハマ市民まち普請事業のように、アイデアに寄り添う民間コーディネーターも必要であると考えます。</p> <p>子どもを産み育てやすい環境づくりについては、先進地の例を参考にすると町長も施政説明の中で強くお話されていた。町の考えは。</p>

<p>8 災害に強い町にするために</p>	<p>(1) 施政説明に災害に強い町にするとあった。県が管理者となっている大川の堤防工事の着手タイミングは今年度内に行うとこれまで説明があったがいつか。竜馬橋の土砂撤去スケジュールは。また、大川エリアの水門の管理やフラップが動いてない場所の整備はいつからどのようにスタートするのか。下流からの土砂撤去を要望する町民も多いが、町と県の対応は。</p>
<p>9 ゼロ予算で実施できる事業はないのか。</p>	<p>(1) 今回の施政説明でも、様々な予算が挙げられているが、予算がなくても職員が工夫して町の未来のためにできる事業もありえる。</p> <p>例えば、飛騨市では、令和6年度にゼロ予算で「地域フォレスターの育成」として森林の整備・保全と林業の成長産業化に向けた取組を牽引する技術者（地域フォレスター）を育成し、市内の林政における専門的・技術的業務を担う人材の確保に繋げることを実施すると記載がある。</p> <p>当町でもこのようなゼロ予算の施策に関する説明も各委員会での説明に入れてもらいたい、町長が今年度取り組んでいきたいゼロ予算でできる前向きな事業はなにか。</p> <p>(2) 上記に挙げた飛騨市では、当初予算のポイントとして分かりやすいイラスト付きの説明 PDF を市民に公表している。その中では、ゼロ予算で実施する事業についても分かりやすく記載がある。当町では、現状の予算書にはゼロ予算項目の事業記載できないからこそ、このような分かりやすい予算説明が必要だと考える。町の考えは。</p>